

## 京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

### 京都の文化世界遺産シリーズ その17 (最終回)



### 延暦寺 (えんりゃくじ)

京都市左京区と滋賀県大津市の比叡山全域を境内とする寺院です。山上から東麓にかけ東塔(とうとう)、西塔(さいとう)、横川(よかわ)等、三塔十六谷の堂塔が点在しています。平安時代初期の僧侶最澄により開か

れた天台宗の総本山であり、住職(貫主)は天台座主と呼ばれ、末寺を統括しています。

最澄の開創以来、高野山と並ぶ平安仏教の中心となり、天台法華の教えだけではなく、密教や禅、念仏も行なわれ、皇室や貴族の尊崇を得て大きな力を持ちました。

数々の名僧も輩出し、日本仏教史上著名な僧の多くが若い日に比叡山で修行していることから、「日本仏教の母山」とも称されます。比叡山で修行した主な僧は、

- ・ 良源(慈恵大師、元三大師 912年 - 985年) 比叡山中興の祖
- ・ 源信(恵心僧都、942年 - 1016年) 『往生要集』の著者
- ・ 良忍(聖応大師、1072年 - 1132年) 融通念仏の唱導者
- ・ 法然(1133年 - 1212年) 日本の浄土宗の開祖
- ・ 栄西(1141年 - 1215年) 日本の臨済宗の開祖
- ・ 慈円(1155年 - 1225年) 歴史書「愚管抄」の作者、天台座主
- ・ 道元(1200年 - 1253年) 日本の曹洞宗の開祖
- ・ 親鸞(1173年 - 1262年) 浄土真宗の開祖
- ・ 日蓮(1222年 - 1282年) 日蓮宗の開祖 　　です。

また、強大な武力を持ち、院政を行い強大な権力を誇った白河法皇ですら「賀茂川の水、双六の賽、山法師。これぞ朕が心にままならぬもの」と残しています。それが、やがて武家政権と僧兵との争いに発展していきます。戦国時代に、織田信長の焼き討ちの後には、豊臣秀吉や徳川家康らによって各僧坊は再建されていきます。江戸時代になり、天台宗の宗務の実権は江戸に移りました。根本中堂は三代将軍徳川家光が再建しています。

京都の世界遺産も最終回で、一応の区切りがつけました。このかわら版も当初の目的から大きく離れており、もう一度見直しをします。一度休止させていただきますね。m( )m